

# 室蘭工業大学-学報

NO.647



市民おどり参加者の集合写真  
(14ページに関連記事あり)

2023年 9 月号

# 目 次

◇ 海外紀行 ◇	
台湾・日台学長フォーラム・国立屏東大学訪問記……………	1
◇ トピックス ◇	
国立大学法人島根大学と包括連携協力協定を締結……………	5
コンピュータ科学センター創立記念シンポジウムを開催……………	6
「アシルトイタ」の活動をnoteに公開……………	7
「デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー」の認定式を実施……………	8
令和5年度「夏の進学相談会in東京」を開催……………	9
高校生対象ビジネスプランニング体験授業を開催……………	10
「第8回サイエンスフェスタ～科学縁日～」を開催……………	11
第29回とましん子供ものづくり教室を開催……………	12
「北洋銀行ものづくりサステナフェア2023」に出展……………	13
第77回むろらん港まつり「総参加市民おどり」に参加……………	14
胆振東部地震に関するシンポジウムにおいて本学教員が講演……………	15
道新室蘭政経文化懇話会において本学教員が講演……………	16
Microsoft365スキルUPワークショップを開催……………	17
◇ 外部資金 ◇	
民間等との共同研究の受入れ……………	18
受託研究等の受入れ……………	19
奨学寄附金の受入れ……………	20
◇ 人 事 ◇	
人事異動……………	21
◇ 学内会議 ◇	
学内各種委員会等の開催……………	22
◇ 日 誌 ◇	
学内行事・学外行事……………	23

# 海外紀行

## 台湾・日台学長フォーラム・国立屏東大学訪問記

坂本 裕子、寺岡 諒、伊藤 祐太、空閑 良壽

### 1. はじめに

2023年7月25日～28日、本学の空閑 良壽・学長、寺岡 諒・助教、伊藤 祐太・係員、坂本 裕子・准教授が台湾を訪問しましたので報告します。今回の訪問目的は国立暨南国際大学で行われた日台学長フォーラムへの出席及び国立屏東大学と本学との大学間学術協定締結調印式への出席です。本学代表団の国立屏東大学公式訪問は今回が初めてとなります。以下に、その訪問記録を記します。

本学代表団の台湾訪問期間中、大型台風5号「トクスリ」が台湾に接近し、台湾南部に影響をもたらしました。この台風により被害を受けた皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

### 2. 日台学長フォーラム関連行事

#### 2-1. 2023日台学長フォーラム 於国立暨南国際大学



写真1. 2023日台学長フォーラム (FICHETウェブサイトより)



写真2. 筑波大学永田学長の表彰 (筑波大学ウェブサイトより)



写真3. 国立成功大学 蘇 慧貞・前学長による基調講演

25日、台湾中部の南投県にある国立暨南国際大学において、「2023日台学長フォーラム」が開催され、本学からは空閑学長と坂本准教授が出席しました。日台学長フォーラムは、2016年から2年に1回のペースで行われており、2018年に広島市で開催された際にも空閑学長が出席し、当時の台湾大学学長との会談も行われました。今回のフォーラムは、台湾の国立暨南国際大学で行われ、日本から16大学2機関、台湾から52大学1機関の学長及び関係者約130名が出席しました。フォーラムに先立ち、国立大学協会 永田 恭介・会長（筑波大学学長）の長年の日台の高等教育交流における功績に対し、台湾教育部から二等教育專業獎章が授与されました。その後のフォーラムでは「Fostering Next-gen Talent: The Capacity-building Roadmap for Higher Education (次世代の人材育成：高等教育におけるキャパシティビルディングのロードマップ)」がテーマとされ、まず、国立成功大学 蘇 慧貞・前

学長が基調講演を行い、成功大学における持続可能な社会に対する貢献モデルと成果、今後のビジョンについて紹介されました。その後、1) 次世代技術をけん引する高度専門人材の育成、2) 高等教育におけるダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンの推進、3) グローバルな人材の魅力：新たなチャンスと展望、4) 分野横断的な研究・学術連携の4つのトピックでセッションが行われました。日本と台湾に共通する課題に対する各大学の取り組みが紹介され、今後も活発な日台の学生交流、緊密な連携機会の創出が期待されました。

## 2-2. 台湾教育部主催昼食会への出席

26日、国立大学協会 永田 恭介・会長（筑波大学学長）が台湾教育部から二等教育專業獎章を受章したことに対する祝賀昼食会が台北のホテルで行われ、本学空閑学長と本学代表団も招待を受け、出席しました。



写真4. 台湾教育部主催祝賀会



写真5. 台湾教育部 劉 孟奇・政務次長に本学記念品を手渡す空閑学長

## 3. 国立屏東大学との学術交流協定締結

### 3-1. 屏東県概要

屏東県は台湾最南端に位置し、県政府と国立屏東大学のある屏東市は、隣接する高雄市まで電車で30分ほどのところにあります。屏東県は台湾本島最南端の岬である鵝鑾鼻を域内に有し、農産物（パイナップル、マンゴー、レンブ等）の産地であり、小琉球島はウミガメの産卵地としても有名です。原住民文化や客家文化等の独特の文化を有するほか、治安が良く、台湾の原風景が見られることから、台湾人だけでなく、日本人を含めた外国人にも人気の観光地として知られています。日本とのゆかりも深く、日本時代の建築物が多く残されており、八田與一が台南市の烏山頭ダム建設に携わった同時期に、屏東県では鳥居信平が台湾で初めて地下ダム「二峰圳」を建設しています。近年は日本時代の建築物のリノベーションや日本時代に植えられたカカオやコーヒーの活用にも注目が集まっています。このようなインフラ関連で本学の土木・建築分野との交流にも可能性があるかと期待できます。また、屏東県にはロケット発射台があり、2022年7月に台湾で初めて、国立陽明交通大学が開発した衛星搭載ロケットの打ち上げに成功しています。今年5月から屏東サイエンスパーク開発事業が本格始動し、ICT・AI×農業・医療、宇宙開発等新興化学事業を中心とした企業誘致と産官学連携が計画されています。屏東サイエンスパーク開発事業に伴い、商工業の発展に不可欠な台湾新幹線の屏東までの延長が可決され、今後さらなる屏東県の発展が期待されるところです。

### 3-2. 国立屏東大学概要

国立屏東大学は、1940年創立の国立屏東教育大学（前身は台湾総督府屏東師範学校）と1991年創立の国立屏東商業学院（前身は国立屏東商業専科学校）が、2014年に合併してできた7学部、32学科、36大学院研究科修士課程、2大学院研究科博士課程、12研究センターを擁する台湾最南端の国立総合大学です。世界20か国196大学と学術交流協定を締結し、華僑含め約150名の留学生が在籍しています。前出の2機関の合併に際して、双方に情報学部があったため、情報系の教員の層が厚く、コンピュータ通信学科、コンピュータサイエンス情報工学科、コンピュータサイエンス人工知能学科、情報管理学科、知能ロボット学科の5つの学科を有し、台湾でも珍しい情報系のすべての分野を網羅する教育と研究を行っています。また、理学部にはサイエンスコミュニケーション学科、応用物理学科、応用化学科、応用数学科、体育学科があ

り、特に光電子工学、材料工学で成果を上げています。

本学はすでに台湾の台湾北部、中部の4大学と学術交流協定を締結し、学生交流や研究交流を行っていますが、台湾南部の大学との協定締結は初めてであり、本提携を通じて、台湾における更なる交流の拡充が期待されます。

### 3-3. 学術交流協定調印式

27日、本来であれば台湾南部の屏東県に移動し、国立屏東大学国際事務所による屏東県視察を予定していましたが、台風5号「トクスリ」が台湾南部に接近した影響を受け、南部への移動を見合わせざるを得なくなりました。大型台風が台湾に接近するのは4年ぶりのことであり、高雄市、屏東県等台湾南部の市県では2日間にわたり台風による臨時休業の措置が執られたため、本学代表团も旅程を変更して、比較的影響の少ない台北に留まることとなりました。ただし、台北においても日台学長フォーラムに参加されていた国立屏東大学の陳 皇州・国際事務所長と今後の学生交流、協働教育等についてあらかじめ意見交換を行いました。具体的には、本学学生の国立屏東大学における短期語学研修について、1) 国立屏東大学が海外姉妹校と実施しているw10プログラム(10日間×学生10名)、2) 台湾・日本・韓国の学生が連携し、ICTをテーマにしたTEDxスタイルの英語によるプレゼンテーションプログラムの実現可能性を議論しました。



写真6. 国立屏東大学との学術交流協定調印式



写真7. 国立屏東大学と本学の代表团

28日、本学代表团は台湾新幹線と台湾鉄道を乗り継ぎ、国立屏東大学に到着しました。国立屏東大学では、台風臨時休業にもかかわらず、陳 永森・学長をはじめとする関係教職員が本部棟入口で代表团を出迎え、無事に学術交流協定調印式が執り行われました。調印式には国立屏東大学 陳 永森・学長、陳 皇州・国際事務所長兼応用化学科教授、詹 勳国・理学部長、林 瑞興・理学部副学部長、応用日本語学科 郭 碧蘭・主任、李 東泰・総務長が出席しました。

空閑学長は、スピーチの中で、1) 今年度本学に新たに設置されたコンピュータ科学センターのねらいに触れ、世界水準の本学のコンピュータ科学分野の研究者が、確かな研究力を担保し、優秀な博士課程学生を世界から受け入れて指導すること、2) 国際的に活躍する優れた研究者等を招へいし、世界水準の教育・研究コミュニティを形成することにおいて、情報系に強みを持つ国立屏東大学と本学との学術交流協定の締結は、非常に有意義なものであること、3) 今回の協定を契機に、今後、双方の学生が国際的な活動を準備するために体験的な場が創出され、国際感覚を養う機会となるとともに、日本と台湾双方の科学技術の発展と日本と台湾の友好親善にも貢献しうることと期待すると話されました。国立屏東大学の陳学長も「室蘭工業大学は日本有数の工業大学であり、今般の台風の風雨にも負けず、両大学が学術交流協定締結にこぎつけたことは喜ばしいことであり、今後の積極的な学生交流や研究協力を通して、台日関係がより緊密で友好なものになることに期待している」と述べられました。また、本学寺岡助教から本学の情報系コースで取り組まれている研究の紹介、及び関心あるテーマについて紹介があり、積極的な共同研究や学生交流への展開への期待をアピールしました。現在、国立屏東大学は情報系、特にバーチャルリアリティ技術に関する研究に力を入れていることから、今後は寺岡助教を始めとする本学情報系コースの教員や学生との共同研究や交流が期待されます。

8月末には、国立屏東大学の陳学長を代表とする訪問団が本学を訪れ、緊密な連携に向けて協議を重ね、より具体的な交流計画に落とし込んでいく予定です。

#### 4. 国立台中科技大学教員との協議

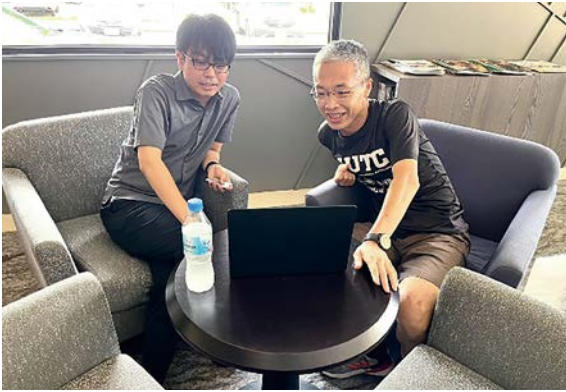


写真8. 寺岡助教と連教授

29日には国立台中科技大学の連 俊璋・教授と本学の寺岡助教による協議が行われました。協議では現在取り組んでいる研究テーマの紹介、今後の共同研究の可能性の模索が行われました。連教授は人間の消費行動に関する研究が専門であり、情報科学と心理学が専門の寺岡助教と近接する研究分野であることから、今後さらなる研究交流が期待されます。現在、両研究室における学生間の研究交流や国際シンポジウムの開催等が計画されています。また、台湾では少子高齢化が社会問題になっていることから、高齢者を対象とした共同研究の可能性も提案されました。

#### 5. 事務職員所感

今回の台湾訪問を通じて、一事務職員として非常に貴重な経験を積むことができたのではないかと感じております。特に日台学長フォーラムでの情報交換会においては、日本・台湾の大学での課題・問題点の共有や、その解決策についての議論を教員・事務職員の垣根なく行うことができました。また、国立台中科技大学の連 俊璋・教授、国立屏東大学の陳永森・学長をはじめとする関係教職員のみならずとも交流した中で、今後、本学との連携強化に向けた提案が多数なされていたことは大変有意義であったと思います。この経験を活かし、本学のさらなる発展に一事務職員として貢献していきたいと思っております。

#### 6. 学長所感

今回で学長就任以来4回目の台湾訪問となり、南部の屏東大学との協定の締結により、北部、中部の大学とあわせて、ほぼ台湾の全域をカバーする大学との連携が実現しました。これにより教員はもとより、学生諸君の派遣・交流の場が大きく広がりました。前回も報告しましたように、台湾では日本と同様あるいはそれ以上に少子高齢化問題が深刻であり、学生確保、入学志願者確保、高齢者のQOLの向上に関して、大きな危機感と併せて、その対応策に関して、スピード感を持って取り組んでいます。

とりわけ、今回は共通の課題を持ったアジア諸国の学生の交流、連携大学や国を超えた異文化の交流・ふれあいを通じたダイバシティの観点からも、学生諸君の人材育成に関してその重要性を肌で感じました。また本学においては大学院の拡充・充実化が喫緊の課題と捉えており、来年4月からの共創情報学コース新設、大学院博士前期課程の定員増、そしてそれに応える大学院での教育・研究の充実、大学院進学につなげる優秀な志願者の確保が重要課題です。優秀な志願者に関しては、国内のみならず海外からの優秀な留学生の確保や単位互換制度やダブルディグリー制度等の検討も必要です。今回若手教員として寺岡助教と若手職員として伊藤係員に同行してもらい、学長と同様な危機感、海外大学・研究機関の動向を肌で感じ、教職員・学生諸君との交流・刺激を受けてくること等を共有できたと思います。

最近の外国出張の際には毎回感じますように、本学も大いに危機感を持って、国内のみならず海外戦略に関してもスピード感を持って対応していくことが、重要であることをあらためて認識しました。本学、教職員の皆様のご協力、よろしくお願いたします。

#### 7. おわりに

今般の国立屏東大学との大学間協定締結により、2024年3月に本学学生のための10日間の短期語学研修が計画されています。プログラムは、中国語や台湾文化に触れるだけでなく、台湾の最先端のICT教育体験、英語によるディスカッションやプレゼンテーション等、充実したプログラムとなる予定です。2桁の学生諸君の参加を期待していますので、積極的にチャレンジください。

最後になりますが、本学代表団の訪問に際して、温かく受け入れてくださった国立屏東大学及び国立台中科技大学の関係者の皆様にお礼を申し上げます。

## トピックス

# 国立大学法人島根大学と包括連携協力協定を締結

令和5年8月28日(月)、室蘭工業大学と島根大学は、両者の強みや特色を活かして教育、研究、地域貢献等の分野において広く連携し教育、研究の質の向上を図り、もって社会の発展及び人材育成に寄与することを目的として、包括連携協力協定を締結しました。

協定式において本学の空閑学長は、「材料や素材の関係で本学が持つノウハウと島根大学が持つ力をうまく協働させ、まずは研究面から活動が活発になることを期待している」と話し、島根大学の服部学長は、「伝統と研究の蓄積がある室蘭工業大学と連携していくことは材料科学研究の大きな力となる」と話しました。

今後は、清水副学長を中心に、研究面での連携を基に、学生及び教職員の交流を進めるとともに、両者の連携を

深めることにより、研究開発型の高付加価値産業への転換、持続可能で働きやすい就労環境の構築、産学官のオールジャパン体制での新素材開発、新技術開発を目指し、イノベーションに資するビジネスモデルの創出による地域経済の活性化、将来を担う中核人材の育成に貢献してまいります。

### 包括連携協定の協力事項

- (1) 教育に関すること。
- (2) 研究に関すること。
- (3) 地域貢献に関すること。
- (4) 産学官連携に関すること。
- (5) 学生及び教職員の交流に関すること。



服部学長（左）と空閑学長（右）



協定締結式の様子

## コンピュータ科学センター創立記念シンポジウムを開催

令和5年4月にコンピュータ科学センターが創立されたことを記念し、令和5年8月9日(水)に、教育・研究1号館A333室にてコンピュータ科学センター創立記念シンポジウムを開催しました。

第一線で活躍する多様な研究者の方々に講師に招き、教職員及び学生 約100名が参加しました。

シンポジウムは午前午後の二部構成で行われ、午前部では、コンピュータ科学センター創立を記念したオープニングセレモニーと、パネルディスカッションが行われました。

オープニングセレモニーでは、コンピュータ科学センター看板の除幕式が行われ、会場は大いに盛り上がりを見せました。

次のパネルディスカッションでは、「研究力強化と人材育成の将来展望～世界水準の研究教育コミュニティの形成に向けて～」と題して、パネリストはそれぞれ異なる立場・視点から、今後の人材育成や教育のあり方についてなど、様々な話題について幅広く議論していただきました。

また、次世代研究者挑戦的研究プログラム採択学生とシンポジウムに参加した講師の方々とのランチ交流会をカフェ TENTOにて行い、活発に意見交換する様子が随所にみられ、学生にとって貴重な体験となりました。

午後部では、基調講演が2つあり、始めに早稲田大学の笠原教授から「グリーン・マルチコア・コンピューティングとオープン・イノベーション・エコシステム」と題して、次に慶應義塾大学の山中教授から「Beyond 5Gがつくるスマート社会の未来—自動運転と電気自動車のコンピュータ科学—」と題して、各大学でのご自身

の研究をもとにご講演いただき、参加者は興味深く聴き入っていました。

また、STELLAR SCIENCE FOUNDATION (SS-F) 代表理事 武部貴則氏より「SS-Fが考えるPeople-centric Scienceの可能性」と題して、科学者を支援する財団 STELLAR SCIENCE FOUNDATIONについて、設立された経緯や取り組みなどについてご講演いただきました。

最後に、「コンピュータ科学を核とした異分野融合とは～分野の壁を越えられるか～」と題して、コンピュータ科学の専門的な内容についてパネルディスカッションが行われました。

参加者は、最先端の研究者との質疑応答やアドバイスに刺激を受けるなど、キャリアアップに資するシンポジウムとなり、盛況のうちに終了しました。

### 【パネリスト】

- ・自然科学研究機構長 川合 眞紀 氏
- ・文部科学省大臣官房審議官 西條 正明 氏
- ・東京医科歯科大学 M&Dデータ科学センター長 宮野 悟 氏
- ・早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 教授 笠原 博徳 氏
- ・慶應義塾大学 理工学部 情報工学科 教授 山中 直明 氏
- ・大阪大学・東京医科歯科大学 教授 武部 貴則 氏
- ・室蘭工業大学 コンピュータ科学センター長 太田 香 教授
- ・室蘭工業大学 副学長 董 晃雄 教授



オープニングセレモニー除幕式の様子



来場者との記念撮影

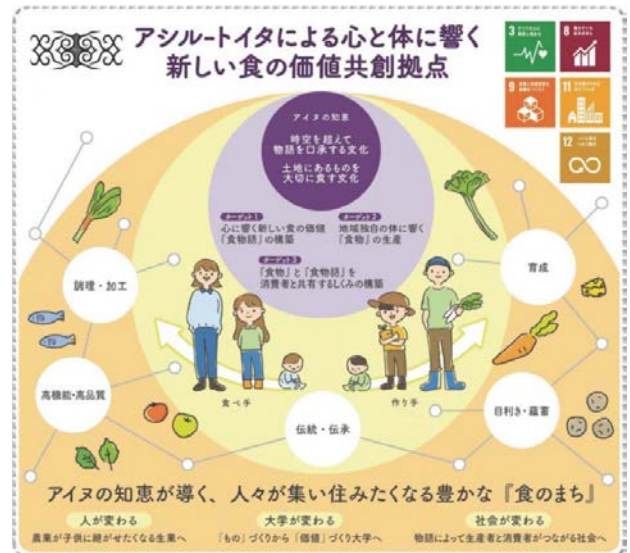


## 「アシル-トイタ」の活動をnoteに公開

「アシル」とはアイヌ語で「新しい」という意味です。「トイタ」は「土地を耕す」ことを意味します。私たちはアイヌの知恵に学び、白糠町の大地、文化、自然、そしてヒトのつながりを新しく耕すことで、人々が集い住みたくなる豊かな町にします。

本拠点では、白糠町特有の気候風土で生産が可能な地域独自の体に響く『食物』を開発し、合わせて栄養や機能情報と文化や伝承などの在来情報を融合した心に響く『食物語』を消費者と共有するしくみを共創します。これにより、作りっぱなしの一次産業から脱却し、農業が子供達に継がせたい魅力的で誇れる職業へと変容します。『食物語』をキーワードに人々がつながる社会が形成され、「人々が集いたくなる、住みたくなる、豊かな食のまち」へと変貌することが期待されます。

プロジェクト活動については、「アシル-トイタによる心と体に響く 新しい食の価値 共創拠点のHP」(<https://asir-toyota.com/>)で公開しておりますが、文章・写真・動画など様々なコンテンツを投稿可能な情報配信サービス「note（ノート）」([https://note.com/asir\\_toyta/](https://note.com/asir_toyta/))では、活動の裏話も含む詳細な内容を公開しております。



## 「デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー」の認定式を実施

室蘭工業大学は、今年度から本学のデジタル・キャンパス（注）の実現に向けた取組を促進するために、デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー（以下、アンバサダー）の制度を創設しました。また、アンバサダーの募集を行い、応募のあった学部1年生から大学院生まで計5名の学生が、令和5年7月20日（木）に学長室での認定式でアンバサダーに任命されました。

認定式では、学長から学生一人ひとりに認定証が贈られました。学長からは「本学としても理工系人材の育成に力を入れており、その社会的ニーズも高まっている。デジタル化に対する意識も高まっているため、今回のアンバサダーには学生視点の若い斬新な発想を期待している。」という激励の言葉がありました。その後、佐藤

デジタル・キャンパス推進室長の部屋で本学のDX戦略や実際に導入しているシステム等に関する懇談会が行われ、今後の活動を進めていくうえで有意義な時間となりました。

任命後初の活動として、キックオフミーティングが予定されており、その後、大学内におけるデジタル・キャンパス化や大学公式モバイルアプリ等の企画、提案等の活動の支援が行われる予定です。

注：セキュアな情報基盤の中で大学内のあらゆるデータを発生時点からデジタル化することを基本とし、それをサイバー空間で活用するデータ駆動型キャンパスのこと。



認定カード授与の様子



学長とアンバサダーの集合写真



佐藤理事室での懇談会の様子



## 令和5年度「夏の進学相談会in東京」を開催

令和5年8月11～13日に、室蘭工業大学東京事務所で「夏の進学相談会 in 東京」を実施しました。東京事務所では、関東在住及びその周辺の方を対象に、定期的に東京で進学相談会を開催しています。

今回は現役の室蘭工大生（学生広報スタッフ「むろこーほー」パーカーさん）も同席し、相談に来られた高

校生や保護者の質問に対して、自身の大学生活について経験談を交えて話していました。

3日間を通して高校生、保護者の方など幅広い方々にご参加いただきました。相談者からは進学や受験に関することはもちろん、パーカーさんの研究内容や室蘭での一人暮らしについての質問もありました。



## 高校生対象ビジネスプランニング体験授業を開催

令和5年8月4日(金)にオープンキャンパスイベント「高校生対象ビジネスプランニング体験授業(START UP2023 HIGH SCHOOL)」を大学会館多目的ホールで開催しました。講師には、パナソニックITS株式会社代表取締役の田辺孝由樹氏、同社室蘭開発室室長の佐藤慎吾氏をお招きし、パナソニックITS株式会社が実践する夢プロジェクトや室蘭MaaS、ビジネスモデルキャンパスについてご講演いただきました。

その後のアイスブレイクでは、マシュマロチャレンジ(パスタ、テープ、ひも、マシュマロを使って自立可能なタワーを立てるチームビルディングの為のゲーム)に挑戦し、チーム毎に役割分担を決めて協力しながら作業

を進め、優勝チームの好記録に、会場は盛り上がりました。

次に、実際のビジネスモデルの検討を行うグループワークを実施しました。各チームには、パナソニックITS株式会社の社員の方が1名ずつコーディネーターとして参加し、最終的な発表を目指してビジネスモデルキャンパスの各項目について、チーム内で議論しながら、ビジネスモデルキャンパスを完成させました。

最後に、チーム毎に完成させたビジネスモデルキャンパスについて発表を行いました。発表者のプレゼン能力の高さに会場がどよめく場面もあり、講評では、田辺氏および見学に来ていた小樽商科大学の北川教授から、それぞれのチームに対して賞賛の言葉が贈られていました。



講演する田辺氏



講演する佐藤氏



マシュマロチャレンジの様子



グループワークの様子

## 「第8回サイエンスフェスタ～科学縁日～」を開催

令和5年7月29日(土)に「第8回サイエンスフェスタ～科学縁日～」をDENZAI環境科学館で開催しました。

サイエンスフェスタは、本学の希土類材料研究センター（ムロランマテリア）が主催し、本センターのPR、地域への研究成果の発信および科学啓蒙活動の一環としてこれまでに計7回、DENZAI環境科学館と共に行われてきました。

第8回目となる今回は、科学縁日と題して希土類材料が関係した超伝導特急や熱電変換材料、本センターが開発した希土類ガラスなど実際に触れることができる体験型実験を行いました。

当日は186名もの方が来場され、大学院生が中心となって最先端の科学を大人から子供まで楽しみながら実験を行いました。



## 第29回とましん子供ものづくり教室を開催

苫小牧信用金庫との共催で第29回とましん子供ものづくり教室「手回しタララちゃんロボットを作ろう！」を令和5年8月10日(木)に苫小牧信用金庫本店6階会議室で開催しました。

本事業は、平成18年度に本学と苫小牧信用金庫において締結した産学連携協定に基づき、毎年実施しており、本学が有する「ものづくり教育・学習」を小学生に提供

することにより、地域社会における技術教育等に資することを目的としたものです。

当日は、16名の児童が、ロボットアリーナの花鳥教授、スタッフの橋詰さん、板井さん及び本学学生スタッフ指導のもと、手回しタララちゃんロボットを製作しました。参加した児童は、自分で製作したロボットを走らせて楽しそうに遊んでいました。



## 「北洋銀行ものづくりサステナフェア2023」に出展

令和5年7月20日(木)に“北海道のものづくり産業から持続可能な未来を創造する”をテーマとして開催された「北洋銀行ものづくりサステナフェア2023」に出展し、ものづくり産業の関係者に向けて本学の取り組みを紹介しました。

本学の出展ブースには150名を超える多くの来場者が

訪れ、コンピュータ科学センターの太田香センター長や大学院生2名から説明を行った他、希土類センター葛谷俊博准教授による「色が変わる希土類ガラス」の展示コーナーを設けるなど、MONOづくりみらい共創機構の担当者から本学の研究や社会連携の取り組みを紹介しました。



「色が変わる希土類ガラス」の説明に耳を傾ける来場者



左から陳さん、コンピュータ科学センター長の太田香教授、沖さん



出展ブース全景

## 第77回むろらん港まつり「総参加市民おどり」に参加

令和5年7月29日(土)に、室蘭市中央町で開催されたむろらん港まつり「総参加市民おどり」に参加しました。本学は教育・研究以外でも地域行事に積極的に大学として参加することで、地域社会の要請に応え、その発展に貢献し支持される大学を目指しています。この行事に

は平成19年度から参加しており、雨天中止等になった年を除き、今回で10回目の参加となりました。

当日は好天の中、教職員と学生37名が「北海盆唄」と「室蘭ばやし」に合わせて踊り歩きました。



踊り歩く教職員・学生



参加者による集合写真



## 胆振東部地震に関するシンポジウムにおいて 本学教員が講演

令和5年8月4日(金)、本学副学長の木幡行宏教授と、大学院工学研究科の川村志麻教授が、『胆振東部地震から5年シンポジウム「平成30年北海道胆振東部地震」を振り返る、被災からこれまで。』に出席し、講演を行いました。

同シンポジウムは、「自然」「技術」「ひと」の3つの視点から胆振東部地震を振り返る3部構成となっています。第1部では『「自然」の視点から胆振東部地震を振り返る』をテーマに、木幡教授は地震発生メカニズムや地盤災害の全体像について、川村教授は胆振東部地域における斜面災害のメカニズムについて講演を行いました。

第2部は『「技術」の視点から胆振東部地震を振り返る』をテーマに、北海道開発局室蘭開発建設部厚真川水

系砂防事業所長の吉田裕敏氏から、日高幌内川などにおける北海道胆振東部地震による土砂災害対策の概要について、北海道建設部土木局道路課長の塩田雅史氏から、北海道胆振東部地震で被災した道路や橋など公共土木施設の復旧について、講演が行われました。

第3部は『「ひと」の視点から胆振東部地震を振り返る』をテーマに、コーディネーターの東北学院大学地域総合学部政策デザイン学科准教授の定池祐季氏が、胆振東部地震時の災害ボランティアや被災者支援に携わった方々をパネリストとして迎え、災害ボランティアの活動や被災者支援、支援者支援、これからのつながりなどについてディスカッションが行われました。



木幡行宏副学長・教授



川村志麻教授

## 道新室蘭政経文化懇話会において本学教員が講演

令和5年8月22日(火)、本学大学院工学研究科の渡邊真也准教授が、道新室蘭政経文化懇話会において「Chat GPTを含めた先端AIの現在」と題し、講演を行いました。

講演は、Chat GPTなどの先端AIの現在地に関することから始まり、AIが社会インフラにどのような影響を与えているのかなどを実例を用いて説明しました。渡邊准教授は「Chat GPTは、デメリットなどもあるが、非常に有用かつ敷居の低いAI技術であるので、積極的に活用してほしい」と講演を締めくくりました。



講演会の様子

## Microsoft365スキルUPワークショップを開催

令和5年7月28日(金)及び8月2日(水)に、本学のデジタル・キャンパス推進室Microsoft365活用タスクフォースが主催するMicrosoft365スキルUPワークショップを本部棟3階大会議室で開催しました。本ワークショップは、Microsoft365に関する便利機能及び各種アプリの業務活用や情報共有を目的にしています。

ワークショップ前半はMicrosoft365アプリの1つである「Whiteboard」を使用したアイスブレイクやMicrosoft365の概要紹介、ノートPC活用のための便利機能紹介を、後半は「ノートPC活用やMicrosoft 365アプリの悩み・不便なこと」をテーマにグループワークを行いました。

事務職員及び技術職員延べ39名が参加し、参加者同士

で課題を解決していくなど活気あるグループワークになりました。また、普段関わることの少ない職員同士が本ワークショップを通じて活発に交流することで、お互い刺激になる大変有意義な時間になりました。

ワークショップ後のオンラインアンケートでは、「自分が日常で使っているアプリや機能はほんの一部で、便利機能を使って業務の効率がだいぶ変わることがわかりました。」といった意見が寄せられました。

次回は翌年1月に別のMicrosoft365アプリに関するワークショップを行う予定であり、今後もデジタルツールに関するイベントを開催して、職員の業務改善に役立てていきます。



説明を受ける職員達



デジタルホワイトボードを使ったアイスブレイク



グループワークの様子



## 外部資金

## 民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額(千円)
しくみ解明系領域 准教授 葛谷俊博	大企業	100
しくみ解明系領域 准教授 渡邊真也	大企業	550
合計(2件)		650

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

## 受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金額(千円)
もの創造系領域 教授 有村 幹治	大企業	2,000
もの創造系領域 准教授 趙越	独立行政法人	3,000
合計(2件)		5,000

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

## 奨学寄附金の受入れ

寄 附 者	目 的	金 額 (千円)
株式会社構研エンジニアリング	工学研究助成	500
室蘭工業大学学生後援会	室蘭工業大学と学生父母との 連携及び学生支援のための 助成	2,100
株式会社キグチテクニクス	工学研究助成	618
一般財団法人リモート・センシング技術センター	工学研究助成	990
東亜グラウト工業株式会社	工学研究助成	600
東亜グラウト工業株式会社	工学研究助成	600
精電舎電子工業株式会社	工学教育助成	500
株式会社特殊衣料	工学研究助成	100
公益財団法人ソロプチミスト日本財団	大学院工学研究科 太田 香教授 が行う次の研究テーマ「6Gの ための無線システム知能化に関 する研究」に対する研究助成	5,000
公益財団法人永守財団	工学研究助成	1,100
合 計 (10件)		12,108

## 人事

## 人事異動

国立大学法人  
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異動内容	氏名	現職
令和5年9月1日	〈採用〉 大学院工学研究科講師（ひと文化系領域）	PICKERT MAXIE	
令和5年9月1日	〈採用〉 保健管理センター事務補佐員	菊地 亜矢	
令和5年9月1日	〈雇用期間更新〉 保健管理センター事務補佐員 総務広報課図書学術情報室事務補佐員	進藤 香美 福山 愛美	

## 学内会議

### 学内各種委員会等の開催

< 7月25日～8月24日 >

**開催日時** 令和5年7月31日(月)  
**会議名** 第4回学長特命連絡会



## 学内行事

- 8月5日(土) 令和5年度オープンキャンパス
- 8月9日(水) コンピュータ科学センター設立記念シンポジウム
- 8月14日(月) 全学一斉休業(16日まで)

## 学外行事

- 7月25日(火) 日台学長フォーラム(台湾)
- 7月29日(土) 第77回むろらん港まつり「総参加市民おどり」(室蘭)
- 8月11日(金) 令和5年度「夏の進学相談会in東京」(13日まで)
- 8月24日(木) 令和5年度国立大学協会トップセミナー(25日まで)(横浜)

## 編集後記

---

◆ 北海道胆振東部地震から9月6日で5年が経ちました。

8月4日、厚真町でシンポジウムがあり、めぐりあわせで参加させていただきました。コーディネーターを務めていた方は私の地元の隣町出身で、家族の転勤で道内を転々とされており、北海道南西沖地震の時に奥尻島で被災された方でした。また、パネリストのうちの一人は、ライジングサンの設営に携わる会社経営者のかたで、ボランティア活動をされている石狩の方でした。6月に発生した、登別市美園町の土砂崩れの時にも重機をもって支援に来てくださっていました。その方は、最近キャンプ場を作ったとかで、10月に防災に関するワークショップを行うのだそう。

地震だけではなくて、2000年に有珠山が噴火して今年で23年。おおよそ20年から30年の周期で噴火を繰り返していて、地震などの噴火の前兆が現れるとのこと。正確に予測はできないですが、そろそろ心構えが必要かもしれません。

あと、缶詰は賞味期限（消費期限？）が何年も過ぎていても、見た目で見ればおいしく食べることができました。大学でも災害時用として備蓄がわずかにありますが、消費期限をすぎると廃棄しなければならない時期がやってきます。いつか、災害時用備蓄を消費期限切れる前に料理して、工大祭で提供できるようなことができたらとも思いました。

（Garoon：総務広報課総務広報係、E-mail：koho@muroran-it.ac.jp）

（総務広報課総務広報係）

---



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびょん」

■編集発行 室蘭工業大学総務広報課  
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所 株式会社日光印刷  
電話 0143-47-8308